

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

| | |
|--|---|
| 教育改革・支援センター | |
| （責任者名） 蒔田 明史 | （役職名） 副学長 |

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|------------------------------|--|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | <p>システム科学技術学部においては、学務システムCampusmateの活用により受講者の履修状況や単位修得状況を把握することが可能である。</p> <p>令和5年度における学部内の応用基礎プログラム履修・修得状況は、1年生全員が必修科目のため252名全員が履修者であり、そのうち単位修得者は231名であった。加えて、2年生で対象科目を履修したものは96名、単位を修得した者は77名であった。</p> <p>学部全体では様式2で示した通り、学部生1,003名のうち1,2年生で計348名が履修しており、履修率は36%である。なお、応用基礎プログラムは3年生の指定単位を修得しなければならず、今年度に修了者輩出予定である。</p> |
| 学修成果 | <p>全科目で実施している授業アンケート結果から、対象科目の総合評価の平均は4.3/5.0点と満足している学生が多いことを示している。</p> <p>令和4年度から実施している全科目が必修である「データサイエンス入門」教育プログラム」3科目（リテラシーレベル認定）から、接続するために令和5年度から実施している「数理・データサイエンス・AI 応用基礎」教育プログラムにおいては、モデルカリキュラムの内容を包含していることを確認し、学科によってはさらに数理・データサイエンス・AI分野について学修を進展させていくことができるよう工夫や検証をしている。</p> |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | <p>全科目で実施している授業アンケートの「目標理解」や「授業理解」の設問から、学生が期待されたレベルに達しているか検証をしている。主要科目の「目標理解」及び「授業理解」については、回答した学生の評定平均が4.0/5.0点と、概ね内容の8割程度を理解していると自己評価しており、期待されたレベルに達していると考えられる。</p> <p>その結果は学科担当教員にフィードバックされ、FD委員会でも共有・連携し、本プログラムの評価・改善の参考としている。</p> <p>科目によっては経験や入学前の知識によって理解度に差が出る場合もあり、TAの援助の活用や本学部独自の「駆けこみ寺」による学生ピアチューターの指導等を利用している学生もある。</p> |
| 学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度 | <p>授業アンケートでは前述の通り授業レベルが対象科目の総合評価の平均は4.3/5.0点と満足している学生が多いことを示しており、後輩等他の学生へ推奨することができると思える。学科の教員も各々工夫を重ね、アンケートの自由記述では「資料を使って丁寧に説明してくれるのでわかりやすい。」「授業内でプログラミングをすべて書き終えるための時間が短いと思っていたが、アーカイブで授業内容が残っているため後日確認できるので非常に良い。」などのコメントが見られた。</p> |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | <p>「データサイエンス入門」（リテラシーレベル）3科目は必修科目であり、1年生全員が履修している。（応用基礎プログラムの第1段階はクリアしているといえる。）そこからさらに接続・発展させるするために、応用基礎プログラムの構成科目や授業内容を授業アンケート等を参考にしながら、実情を検証し、カリキュラムの検討等・改正を行っていきたい。</p> <p>また、本学ホームページや今年度の学生便覧にプログラムを掲載、掲示板に掲示する等、周知に努めている。</p> |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | <p>当プログラムは本学では令和5年度からの開講であり、まだ修了者を輩出していないため、進路や活躍状況等は評価できていないが、今後修了生が就職した際には就職先企業に対して追跡調査を実施予定である。</p> <p>また次の通り、主な就職先企業等には本プログラムの内容を説明するとともに、意見を聴取した。</p> |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | <p>本学の就職先企業等にアンケートを依頼、回答いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省のモデルカリキュラムが求める内容を満たしているか？：肯定的回答67% ・現代社会でのデータ活用状況への理解や関心を促すか？：肯定的回答：79% ・学生がデータリテラシーを身につけるため役立つか？：肯定的回答64% ・データサイエンスの知識と技法の修得に役立つか？：肯定的回答：70% ・AIの原理や特性の修得に役立つか？：肯定的回答74% <p>「履修後の学生にインターンシップの場を設けたい。」「データサイエンスやAIなどを活用した実践的な数値・データの解析技術やその応用についての教育を期待する。」等の意見もいただいた。</p> |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | <p>応用基礎レベルのモデルカリキュラムに準じた内容を展開し、実社会での話題や実例を取り上げ、AI等がどのような活用をされているかを題材に興味や好奇心を促す講義内容を設定している授業もある。</p> <p>演習を通じ、プログラミング基礎からデータ解析・活用等を実践的に学べるようにしている。</p> <p>また他の科目でもIT関連や再生可能エネルギー、輸送機産業関連企業の経営者や社員等を講師に招聘し、実社会における活用場面や課題などのリアルな声を紹介していただくこともある。</p> |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>授業アンケートをもとに、学生からの意見を検討、より分かりやすく理解しやすい内容を反映する努力をしている。またFD委員会において授業アンケートの検証やシラバスの確認、勉強会や授業見学等を実施し、より分かりやすい授業の水準や内容の維持・向上に努めている、</p> <p>さらに外部評価者による授業評価を毎年実施し、授業の内容や方法に対してメンタリングを行っている。</p> <p>カリキュラムやシラバス作成の際には、現在の社会情勢や技術の発達、話題や課題等を考慮して都度その内容を検討、改定するなどの工夫を行っている。</p> |